

こんな経験ありませんか？

情報化、国際化や高齢化が進み、個人の価値観も多様化していますが、私たちのまわりの環境はそれらに対応できているのでしょうか？



特集1

みんなできり組むユニバーサルデザイン

パートナーシップで築く「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」

ユニバーサルデザイン(UD)って何？



これまで、身の回りの多くの物や施設は、若くて健康な人が使うことを前提につくられてきました。また、それを不便だと感じるお年寄りや体の不自由な方のためには、その方たちにあったものがそれぞれ別につくられてきました。

暮らしの中の不便さや障壁(バリア)をなくしていくバリアフリーという考え方もありますが、ユニバーサルデザインは最初から障壁となるようなものをつくらないで、だれもが使えるようにしていこうという考え方です。

つまり、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、さまざまな人を対象に、だれもが使いやすく、暮らしやすいまちづくりや物づくり、環境づくりをしていこうというものです。

※●ユニバーサル(Universal) すべての人々の、全世界の ●デザイン(Design) 計画、考え、設計 = 頭文字をとって「UD(ユーディー)」

具体的には、どんなものをいうのでしょうか？

簡単でだれもが使いやすい家庭用品や文具、より多くの人がか不便さを感じない施設は、ユニバーサルデザインといえるでしょう。

例えば、公共の施設などにある水飲み場は、高い位置だけにあると、子どもや車いす利用の方などにとっては使いにくいものです。そこで、高い位置と低い位置の両方に水飲み場を設けることによって、より多くの人がか利用しやすいユニバーサルデザインになるのです。

